

## 汎太平洋仏教青年大会に列して

## 歓迎会

七月十六日午後二時五十二分、広島発急行列車の人になった。途中、何処へも誰へも知らせずに神戸、大阪と過ぎて、十七日午前十時東京駅につく。この度に限って泊る所もないので、帝国教育会館に御厄介となることにする。何分たくさんのお客なので、青森県の臨濟宗の僧、田口豊洲氏と、九州宮崎県の本願寺布教使、中原蓮正氏と一緒にである。南北の端と中国と面白い関係である。この日午後三時から日比谷の公会堂で歓迎会がある。三人で公会堂につくと、入口前で法華の行者が盛にお題目を称えて団扇太鼓をたたいている。場内は、三時迄に立雖の余地なく人で埋まる。正面のステージには、日、英、米、満、支、シヤムの六ヶ国の国旗がかかっている。

外国代表の代表と、仏教女学校連盟の生徒団とがステージにあらわれて幕は開く。司会者が開会の辞を述べる。ついで山田耕作氏指揮のもとに、女学生たちが讚仏歌、仏青会歌を合唱する。次に美しい稚児たちによって、礼讚舞がまわられて、柴田一能氏が歓迎の辞を述べる。それが英訳される。つづいて、各国代表の代表が紹介される。中華民国、カナダ、インド、ビルマ、マレー、セイロン、シンガポール、ジャバ、日本、満州、シヤム、北米、ハワイの十三ヶ国の代表が紹介と共に立つて礼をする。やがて法華神力品の聖歌の合唱があつて第一部終り。第二部に入り、合唱、舞踊、劇等九回、その中、巢鴨女商の仕舞羽衣、武蔵野女子学院の劇、光明皇后等はなかなか立派。ついで二ヶ所の食堂でこの千人以上の大衆に夕食の接待である。午後六時から第三部に入る。ここでは新舞踊が数番あつて琴曲を聞く。宮城道雄氏の一門の人たち、それに吉田晴風氏の尺八が入る。日本芸術の粹の紹介である。独唱等もあつて、最後が長唄、藤娘の踊りが出て終る。九時すぎである。午後三時から九時までのこの番組、幹部たちの苦心を思う。

## 築地本願寺へ

七月十八日、大会第一日である。午前八時、三人で築地本願寺へゆく。受付で、會員章を受け会場に入る。大正十二年の大震災以後、復興されたる築地本願寺は、三百五十万円とか費したそうだが、鉄筋コンクリ建、それに東洋美術の粹を集め、内部は全て寺院式であるが、天井、内陣等、誠に荘厳華麗の豪華を極めたものである。本堂の左右及び階下に幾多の部屋があり、会議室、総会所等も実に美しいものである。至る所大理石が光る。この度の会場にはうちつけのものである。全て椅子、七百名の代表、その他を合せて入れても、饒裕シヤク／＼である。大きな金障子の前には、壇が造られて、議長、副議長その他の席が設けられている。

九時半、やっと開会式に入る。八時からこの間の時間が無駄に費されて惜しかった。帝国女子管絃楽団の奏楽がはじまる。司会者が開会を宣言する。ついで参加国の国歌が吹奏される。初めに、君が代二回、誰となく何等となく、管絃楽につれ歌いはじめる。その間に、日本仏教青年会旗が壇上に奉置される。やがて、英、米、満、支、シヤム等の国歌が吹奏されるにつれて、十三ヶ国の仏青旗は順次に奉置されてゆ

く。この時こそは、大会中での厳粛な場面であつた。大衆は声をのんで代表の動作に注目し、仏前に礼拝して一本づゝ会旗が奉置される。ひゞくも町は国歌だけである。厳粛な空気が大会を流れる。その時、私の頭の中を、国歌のない国、と頭をかすめる。英国の国歌につれて登壇した印度代表、セイロン代表等の心を思つた。やがて仏音協会の聖歌隊が讃仏歌を合唱する。次に、三帰依文拝誦である。印度代表デパブリア・ワリシンハ氏が登壇して、巴里語による三帰依文を主唱し、大衆が合唱する。

ブツダハム サラナム ガツチャアミ

Buddham Saranam Gacchami

と発唱されるにつれて、大衆はそれに和する。宗派を超え、国境を超え、言語を超えて、帰依仏、帰依法、帰依僧と、同一行が行じられる。我等はここに一切を超えて、人類の根源に帰つて、同一の血液の流れを感じる。それぞれ体験的立場や伝統によつて、小乗、大乘、聖道浄土と、多くの宗派を生んだことは仕方がない。しかしやがて宗派の末梢に囚われて、まるで仇敵のようになって争うことは、大聖の心を失つたものだ。この度、汎太平洋仏青が一切を超えて同一仏陀の精神に帰ろうとするそれだけでも大会の意義はあると思う。次いで英語の仏教聖歌が歌はれて聖典拝誦、般若心経が支部代表によつてあげられる。仏教青年会歌が会衆一同によつて合唱されて第一部を了る。

第二部に入り、司会者は開会の辞を述べる。演説は全て、日、英、支の三ヶ国語に訳される。この度の大会の生みの親の一人である常光浩然氏が仮議長として、議長席につく。昨年春上京した時には同氏の経営していられる光華寮で一席お話ししたことがある。誰かが私の肩をたたいて、「広島県はなかなかやりますね。常光氏も、鷹谷氏も広島県人だ、つまり日本仏青全聯でもこの度でも、この二人が生んだのです。」と言つた。

仮議長は、これから大会をリードしつつ、会長を楽田一能氏に、総裁を大谷尊由氏、顧問に高楠博士その他を決定して推戴。やがて、柴田会長は式辞を述べる。大谷総裁は巨軀を壇上に運び、挨拶を述べられる。それから全て、英諾、支部訳される。ついで各国代表はメッセージを朗読する。外国代表の声を聞く最初である。次は来賓祝辞、松田文部大臣が最初。ついで重光外務次官があらわれる。上海事変で片足を痛められてビッコ姿である。しかし如何にも外交官らしいタイプである。その他次々に祝辞があり、更に祝電の披露がある。

やがて議長、副議長の選挙に移り、便法使用で、会長一任に決し、陸大教授の大村桂巖氏を議長に、印度代表、ワリシンハ氏その他を副議長に決す。常光仮議長、書記長席に移り、大村議長、議長席に、副議長席にワリシンハ氏各着席。両氏の挨拶があつて、ここに完全に会議の形態を備える。

印度代表、大菩提会主事、デパブリア・ワリシンハ氏は、白色の衣を身につけている。あれが袈裟かも知れない。大変に達者な英語で何でも語る。名刺にはベナラスヒンズー大挙学会々員とある。賢明そのものゝ相好を持つており、色も黒くはなく、ノーブルな風貌等、大会中の花形であり、人気である。印度人の優れた智能及び

文化性というものを知らることが出来る。印度民族はかつての日、大聖を生んだ民族であり、現在は仏教を失つてあの被征服の弱者としての民族となつたのである。

やがて仏音協会の聖歌隊によつて聖歌四弘誓願が合唱されて閉会となる。直ちに全体の記念撮影があつて、弁当を受け、第一日を了る。この日午後一時より各国首席代表は宮城に伺候し、午後三時より各国代表は外務省招待会に出席する。

宿に帰つて来ると、中原氏ははじめてであるから一周したいという。タクシーが五円で一周するといふので、私には非ついで来てくれという。雨の中を一緒に出る。瀬田から丸の内に出て、方々に寄りつつ明治神宮に至り、代々木練兵場を横切つて裏口から参拝。それから、泉岳寺の義士の墓、浅草の寺、靖国神社がぬけただけで大概の所には行つて、時間が二時間半、朝日新聞社に至る。朝日講堂で今晚の講演がある。

#### 各出国代表の叫び

司会者の開会の辞について先ず登壇したのが、中華代表、院紫陽氏である。氏はもと日本にいて神戸地方で学校の校長などをしていたそうで、もし氏が志を一にしていた先輩某氏が早く世を去らねば、今は時めくはずの人だと後になつて藤井草宣氏から聞いた。それだけに、大変巧みな日本語で「大亜親善」と題して語る。日支、その他亜細亜民族が仏教の名のもとに大親善を成就すべきを叫び、釈尊の実行主義を讃える。

次には「仏教国印度」と題して印度代表デバブリア・ワリシンハ氏が、上手な英語で語る。印度には現在には仏教はない。もと印度民族の一番幸福であつた時は、阿育王によつて統治された時であつた。仏の心を根本にして国を治められたこの時こそ、民族は未曾有の文化と幸福に浴することが出来たことを絶唱し、それが国外からきた粗野なる文化のために蹂躪されたことを歎き、現在の印度に仏教なきが故に、日本より仏教の逆輸入されんことを希い、更に印度の聖地、仏陀伽耶は、仏教徒の手になくて、ヒンズー教徒の手にあることを訴え、しかし、もと仏の遺蹟は、猛獣のためにさえぎられて、これを巡舞することさえ出来なかつたのを、印度が英国の統治下におかれるに至つて、はじめて現在のようになつたと、英国政府に感謝して広い心を見せ、更にヒンズー教徒の親切にして寛大なることを語つて、少しも他宗教を罵らず、ワリシンハ氏の人格高潔を示し、しかしながら、氏が主事である大菩提会の使命を語つて、一日も早く仏陀伽耶の聖地を仏教徒の手に奪還したいことを述べて、その協力援助を乞ひ、多大の感銘を与えて降壇する。何といつても、この大会の花形である。

次に満州代表、如光法師は「仏教は安樂の法門なり」と題して述べ、仏教の興隆を願求して降る。ついでビルマ代表、ニヨウ夫人は「大会参加の所感」と題して語る。日本女性によく似た顔で、髪を今頃の日本婦人のようにひきつけ、髪を残りを、小さいシルクハットのような型に巻いている。大会中この小さいシルクハット型が皆の印象に残る。ニヨウ夫人は巧な英語で日本上陸以来の感想を語り、日本をたたえ、歓待を感謝し、所感を述べて降る。

次には、「仏教をヨーロッパへ」と題して、仏教エスペラント協会代表、ユツケルマン氏は、エス語で、演題の通りを高調して、仏教こそ人類の指導原理なることを叫び、エス語の普及を希つて降る。

次はシャム国代表、シャム国仏教青年会々長ビヤシリシチカーン・バンチヨング氏は「シャムに於ける仏教の普及について」と題し、同国においては仏教は国教であつて、皇室以下、国民は概ね仏教信者であること、それについて国民一般の仏教的教養、その施設等について語る。

次はハワイの二世大塚興氏はハワイの仏教を報告し、次で「日米を結合する仏教」と題して、北米のマジストレット・ウイリアム氏は、これは又日本語でやつてのける。仏教精神を普及し紹介することが、日米結合の唯一の道たることを語る。氏はあとで語つて見ると、現在は京都の和光寮にいる。日本語で何でも語る。米国で日本語を学び、今京都で漢文を学んでいる。「なか／＼漢文は難しく困ります。」と言つている。龍大に入学するのだそうだ。日本人で、僧侶で、経典をやつていない人があることを思つた時、感心させられた。この人こそ、やがて日米を仏教によつて結んでくれるだろう。

つぎに、頭に白布をクルクルと巻きつけた印度のヒンズー教徒代表ヴィシュババント氏は「仏教徒につぐ」と題して語る。この大会の中に二人の印度教徒が参加した。仏教徒でなくても参加したのである。氏は印度教と仏教とは、その根本的態度、宇宙観、人生観等において異つたものではないことを語り、仏教の盛大を祈り、所感を述べて去る。

最後に日本代表として矢吹博士が立たれた。印度に芽を切り根を下し、支部に繁つて、日本で花咲き実を結んだのだと語り、日本仏教を紹介される。時間が短いので十分に語りつくされない。雄弁な博士の話をはじめて聞いた。かくて各国代表の講演会は了る。

## 第二日

七月十九日第二日である。午前八時、築地本願寺に入る。開会、今日は、三帰依文の主唱者は印度代表、スワミ大僧正であつた。黄色な布を全身にまきつけ、草履をはき、手に椰子の葉か何かで造つた円扇を持ち、すでに大分の高齢で、写真で見るガンジーそつくりの人である。氏は先ず英語で挨拶して、巴里語の三帰依文を朗誦する。大衆の和すること前の通り、以後毎日スワミ大僧正の主唱である。ついで会議役員選挙、この度の大会に関する準備経過報告があつて、議案が上程された。四日間の会期に、議案の集ること首二十七案の多数である。本団より、

汎太平洋仏青連盟結成促進に関する案

世界戦争防止に関する案

宗派協同に関する案

以上の三案を提出した。百二十七案は、それぞれ部類に整理され、それを第一部会より第四部会までに分割して、議せられることになつた。私は第四部会に入つた。や

がて、各国仏教青年会の現状報告がなされはじめた。それがすむと議案審査委員長の指名があつて、総会をおわり、午前十時より部会となる。

#### 第四部会

第四部会は、社会問題、国際問題等に関する案が議せられる部である。長谷川良信氏が委員長で浅野研真氏等もこの部である。先ず世界平和に関する案について、提出者七人が、それぞれの案件に対する説明をする。私も世界戦争防止に関する件の説明をした。ついで、人種平等等に関する案四件、国際仏教に関する案二件、農村への仏教的対策に関する案四件、社会信条制定に関する案、仏教的経済機構に関する案二件、それぞれ説明される。それがすむと各案に対する委員会が生れて委員附托となる。

私は世界平和に関する委員となる。この委員会では、京都高倉会館の山名義順君、高野山大学の水生君、天沼研究室の森田卓三君、北米代表の田代君、田代氏は北米で大学を出てから歯科医を開業している人。盛んに向うの様子を紹介する。又この外に満州国公使館の孫錯君がいる。孫氏は、支那語の通訳に來たのだが、初は全く日本人だと思つていたほど日本語が出来るし、日本化している。同氏は満州国を代表して盛に熱をあげる。この日から同氏と大心易くなる。孫氏は次回大会の開催地を満州国とせよと主張しはじめて、大会中、遂に、次回の開催地は未決定のままにさせてしまった。午後委員会を継続し、時には、人種平等案組と一緒にしたりして練つたがななく議論百出でまとまらない。世界平和に対して仏教徒として如何に処するかという、本大会きつての問題だけに終に夕方になつて開会、宿にかえる。

#### 第三日

午前八時から本堂では総会が開かれているが、第四部会の委員会続行で、総会に出られない。総会では例の通り三帰依文拝誦、種々なる報告、第一号議案による「汎太平洋仏教宣布、仏青運動に功労ありし有名無名の者の英靈に酬ゆるため、本大会は一分間の黙祷を捧ぐべし。」と実行したり、各国現状報告、議事等があつたはずである。十時より部会になり、四部会各小委員会の成案報告、それに対する質議等があつて、案をすべて通過せしめ、これを総会におくる。かくて第三日をおわる。

その夜、七時から本郷の帝大仏教青年会館において、各国代表の講演会がある。教育会館に帰ると、西川豊君、後藤周統君が来訪してくれる。両氏とも本団運動について長い間活動してくれた人たちである。一緒に街で夕食をとり、帝大会館にゆく。すでに始つていた。各国代表はそれぞれ立って挨拶なり講演なりしたが、中でも、英国代表、マハナヤ仏青副会長。ピー・エル・ブロートン氏は「日本仏教の特質」と題して、詳細に日本仏教文化史を語りつつ伝教、弘法、法然、親鸞、日蓮等の諸聖の出現と、その常時の社会状態とを語りつつ、日本の学者そちのけの講演ぶりであつた。外国人にして、日本文化にかくの如き造詣深き人があるかと驚かされた。氏は、全て洋服を用ひず、大会中和服を着、式には紋服、平素は縫紋の羽織に袴、それに桐の下駄をはいている。

チエコスロバキヤ代表、北海道帝大講師ヘンケル氏は、その専門の立場から「仏教思想と現代物理学との類似」と題して、仏教が智慧の宗教として、独断的神秘主義をとらず、あくまで正しい物の見方をする点と、物理学の主張との類似点を述べて、仏教礼讃をする。終に東大教授宇野博士の日本仏教の紹介があつて、おわる。その他にも種々出演者があつたが略しておく。

#### 第四日

八時総会開会、例の如く三帰依文の齋唱、聖歌合唱等があつて、昨日迄の各部会報告に入つたが、私は汎太平洋仏青連盟結成委員会の委員を指名されたので、会議室にゆく。この委員会は、今度新らしく、汎太平洋仏青連盟を結成する重要な委員会である。委員長は本県出身の鷹谷俊之氏。氏は他に色々と用事があるので北米の寺川湛濟氏が会議をまとめる。この委員会には、セイロン代表ニッサン氏、印度代表カワリシンハ氏、シヤム代表パンチョング氏等も委員となつて出席している三十名足らずの小委員会である。幹部がかねて用意しておいた、十二ヶ条よりなる法規の案について逐条審議してゆく。二時間もかかつてやつと委員会の仕事をおわる。これで日本東京に事務所をおく恒久的な仏青連盟が生れることになつた。この仏青連盟が生れるのみ、大会に於いて決議された案の実行が可能になるのである。

総会では、四部会の世界平和に関する案等が一番初めにかけられて可決せられ、次々と各部会の報告があり、やがて、先の汎太平洋仏青連盟法規が報告可決せられた。いよく議事をおわり開会である。四恩の歌、仏教徒の歌等の聖歌が合唱せられ、閉会の辞が述べられ、大谷総裁の発声によつて、天皇陛下、各国元首、仏青大会等の万歳が三唱せられて閉会となる。

多くの記念品等を頂戴して、屋上の本願寺主催の午餐会に招待されて、会場を去る。

この日午後五時五十五分、一行七百名を乗せた特別列車は、東茶駅を出発した。

二十二日朝六時、汽車は天津についた。駅頭からすでに全市挙げての大歓迎である。徒歩三井寺に至り、それより公舎堂において歓迎会があり、終つて遊覧船にて湖水めぐりあり、京都市の歓迎会員も出張し、誠に至れり尽くせりの歓迎である。やがて新唐崎に上陸した一行は、叡山に向つたが、私は大津駅にひきかえして広島に向つて帰つた。一行は更に京都高野山、大阪を経て、広島に来るのである。多少感想等もあるが紙面の都会上略すことにする。